



渋谷区立原宿外苑中学校

第3学年

シラバスを最大限活用しよう!

渋谷区立原宿外苑中学校長

駒崎 彰一

シラバス(Syllabus) = 授業についての要項

担当の先生が1年間の授業計画(要項=ポイント)を伝えるためのものです。

授業内容、年間スケジュール、授業のねらいや目標、授業の形式、評価方法などの授業に関する情報が書かれています。

シラバスで目標の確認

シラバスには、授業のねらいや目標が記されています。

授業を通して、どんな知識や技能、資質・能力を身につけられるのか、迷うことのないように到達目標が設定されています。授業を受けている中で、目的を見失わないために重要な機能を果たしていくはずです。

シラバスで担当の先生や授業のイメージをつかむ

シラバスは、担当の先生が書いています。そのため、シラバスの内容にはバラつきがあります。細かく課題やスケジュールを設定している先生もいれば、基本情報以外は書かない先生もいます。先生ごとの性格がシラバスに表れています。細かく指導してくれる先生なのか、自分のペースで授業を進める先生なのかなど、担当の先生のイメージをつかむことができます。同時に、授業がどのように進められるのかが示されていますので、授業のイメージをつかむこともできるはずです。

シラバスを読んで事前準備

シラバスには授業に必要な心構えが明記されています。それだけでなく、事前に読んでおくとプラスになる情報が満載です。シラバスをよく読んで事前準備しておくことは、授業に主体的に参加して充実したものにするため重要なことです。

シラバスで評価方法を確認

シラバスを読めば、その授業の評価方法を知ることができます。評価方法は授業によって様々です。評価はテストだけではありません。提出物や授業に取り組む姿勢など様々な観点で評価され成績となります。これらの評価方法については、シラバスに記載されています。大切な部分ですから、注意深く読んでおきましょう。

シラバスは契約書

シラバスは、担当先生との間に交わされる契約書のようなものです。シラバスに書かれていることに従って、先生は授業を進めていきます。一方、生徒の皆さんはシラバスを読んで注意事項や約束事項を守る必要があります。お互いが有意義に授業に臨み、充実させるための契約書として、シラバスは機能しているのです。

定期テストを受けるにあたって

1. テスト1週間前

- ① 部活動は原則中止になります。放課後はすぐに下校します。
- ② 学習計画表などを活用して、テスト勉強に取り組みます。

2. テスト前日までに

- ① 試験範囲表などを参考にし、試験に必要なものを準備します。
教科によっては、特別なものが必要になることもあります。当日になってあわてないように前日に持ち物のチェックをします。
- ② テスト当日に、提出物のある教科もあります。忘れないように注意します。

3. テスト当日

① 開始前

- ア 机を整頓し、開始5分前の予鈴で着席する。
このときに、机の中は空にし、机の上は、筆記用具と消しゴム、指示されたものだけとします。
- イ かばんや荷物は、後ろのロッカーに置き、机のまわりには何も置きません。
- ウ もう一度机の中に、何も入っていないか確認します。
- エ 下敷きの使用は認められておりません。必要なときには前日までに担任の先生に相談をしておきます。

② 予鈴後

- ア あいさつをした後は、話をしてはいけません。
- イ 問題用紙は、裏返しにして、すみやかに自分の分を取り、後ろにまわします。
- ウ 配布部数に余りがあったり、足りなかったりした場合には、静かに手をあげ、指示を待ちます。

③ 開始後

- ア 監督の先生の【はじめ】の合図にしたがって、問題用紙を表にします。
- イ 枚数等に不備がある場合には、静かに手をあげて、監督の先生が来るのを待ちます。
- ウ 最初に、クラス、出席番号、名前を記入します。
記名のない解答用紙は採点の対象にはならなくなるので、必ず記名しましょう。

④ テスト中

- ア 丁寧に、誰もが読める字を心がけること。
- イ 特に漢字ははっきりと書きましょう。はっきりしない場合には採点対象となりません。
- ウ 消しゴムで消すときは、下の文字が残らないようにしっかりと消します。
- エ 質問や疑問がある場合には、静かに手をあげ、そのまま待つこと。
- オ 消しゴムや筆記用具、問題用紙等を落としたときは、静かに手をあげます。
絶対に自分で勝手に拾ってはいけません。
- カ 消しゴムなどの、物を貸したり借りたりすることは禁止です。
- キ 体調が悪くなった時には、すぐに手をあげて監督の先生を呼びます。
- ク 周囲を見回す(よそ見をする)、他の人の答案用紙を見るなどをしてはいけません(不正行為といえます)。
- ケ 不正行為はその時間のテストが0点になります。不正行為は絶対にやめましょう。

コ 早く終わったら、解答用紙をよく見直しをしましょう。

⑤ 終了後

ア 監督の先生の【終わり】の合図で筆記用具を置きます。

イ 監督の先生の合図のあとに、解答用紙に解答を書いてはいけません。

ウ おしゃべりをしたり解答の確認をしたり、他人の答案と見比べたりしてはいけません。

エ 各列、一番後ろの座席の生徒は、自分の答案の上に、順次前の人の答案を重ねて集めます。他の人は、静かに自分の席で待ちましょう。

オ 監督の先生が、答案を確認した後に号令をしてください。

カ 号令後は、次の時間の準備の時間です。トイレ等を早めにすませ、次の時間のテストに備えます。一日の最後のテストのときは、帰り学活の準備をします。

キ 問題用紙は、テストが返却されるときに使用します。無くしたり、丸めたりしないように、各自保管してください。

4. 答案が返却されるとき

① 机の上には、問題用紙と赤ペンのみを準備します。筆箱等を机に出してはいけません。

② 答案をよく確認し、先生の解説をよく聞きましょう。

5. 答案返却後

① 復習が一番大切です。できなかったところをしっかりとできるように心がけること。

② 自分の学習計画表を見直し、何がよかったか、何が悪かったのかを把握しましょう。

評価・評定に関して

1. 観点別評価

中学校では各教科の目標に応じて、その達成状況を「観点」ごとに評価し、A、B、Cの3段階で評価します。それぞれの「観点」には、学習目標が定められており、それを「評価規準」と言います。（各教科の「観点」については、各教科のシラバス【学習をすすめるにあたって】のページを参考にしてください）

各教科では、指導計画・評価規準に基づいて、それぞれの「観点」を定期考査、実技テスト、単元テスト、提出物、作品、レポートやプリントなどの資料をもとに点数化していきます。「観点」ごとに目標（評価規準）の達成状況を計算し、以下のように評価を付けていきます。

- 【A】：「十分満足できると判断できるもの」……………達成率80%以上
- 【B】：「おおむね満足できると判断できるもの」……………達成率50%以上
- 【C】：「努力を要すると判断されるもの」……………達成率50%未満

2. 評定

各教科の「評定」は5, 4, 3, 2, 1の5段階で記入します。「評定」は、「観点別評価」を、教科の特性や生徒の実態に応じた「重み付け」により100点満点に換算して計算をし、以下のように決定します。（各教科の重み付けは、各教科の【学習をすすめるにあたって】を参考にしてください）

- 5：「十分満足できると判断できるもののうち、特に高い程度のもの」・達成率90%以上
- 4：「十分満足できると判断できるもの」……………達成率80%以上
- 3：「おおむね満足できると判断できるもの」……………達成率50%以上
- 2：「努力を要すると判断できるもの」……………達成率20%以上
- 1：「一層努力を要すると判断できるもの」……………達成率20%未満

※ テストでよい点数をとっても、普段の授業態度がよくなかったり、提出物の提出状況が悪かったりすると、良い評価・評定は付きません。普段から学習に真剣に取り組み、積極的に参加することが大切です。

欠席・遅刻等による定期テストの対応について

定期テストは現時点での各教科の学習状況に測るものです。その結果はシラバスに示したように観点別評価の評価資料として用います。定期テストの全体の公平性と学習状況を正しく捉えるという点から、欠席・遅刻に関して次のような扱いをいたします。

1 出席停止による欠席（感染症等で出席が認められない場合）

- ・受験できない教科に対して、後日、試験を実施する。
- ・結果については当該教科で参考点とする。

2 病気等による欠席

- ・受験できなかった教科に対して、後日、試験やレポートを実施する。
- ・結果については当該教科で参考点とする。

3 遅刻

- ・職員室に登校の報告をし、自分の教室で受験する。
- ・テスト時間は正規の終了時間までとする。
- ・結果についてはその得点を評価材料とする。

4 自己都合による欠席（寝坊等）

- ・後日の定期考査の別試験は実施しない。
- ・結果は未受験とする。

国語科の学習を進めるにあたって 第三学年

☆3年国語科の課題

場面や情景、心情や論理を的確に読み取り、書き手や話し手の意図や作品の主題を理解し、解釈し批評した事柄を適切に表現する力を養う。

課題克服のために

- ① 語句の意味や働きを習得して言語感覚を磨き合い、学び合う授業を皆で創ります。
- ② 2年次の国語科の学習を参考に、各自目標を設定して計画を立て、実行します。

発展的な学習のために

- ① ノートのメモ欄の活用で新たな学習課題を設定し、自主学习・補充学習で取り組みます。
- ② 補充教材やワークシートは学習後もファイリングし、その後の発展学習で活用します。

☆授業の進め方

- ① チャイム学習で、基礎的知識の習得する学習に取り組みます。
- ② 多様な言語活動で語句や表現に即して読みを深め、表現する学習を継続して行います。

☆学習する上で注意してほしいこと

「話すこと・書くこと」は自らが発信する表現活動なので苦手意識をもつ人は多いと思いますが、実は最も難しいのは「聞く（聴く）こと」だと言われています。耳から入る音声をただ受け止めるだけと考えると簡単ですが、「聞き取る」「聞き分ける」ことができないと、話の要点を的確にとらえて、自分の考えや理解を広げたり、深めたりしていく主体的な聴き方や考える力が身に付きません。先生の説明や友達の発言を、視野を広げ理解を深めるための貴重な情報として捉え、学びの基礎である集中力、吸収力を高めていきましょう。

☆家庭学習の進め方

授業で身に付けた基礎的・基本的な言葉の知識や漢字・語句・文法練習は、必ず家庭学習で復習しましょう。作品やワークシートは期日に提出できるようにしましょう。また、必要に応じて復習や自主的な学習に取り組みましょう。

語句・語彙力や読解力を高めるための読書も必須です。授業での読書紹介や様々なブックリストを参考に、読む本の世界を広げ、読書生活を向上させていきましょう。

また、家族や地域、友人たちとの会話や対話も大切です。さまざまな人との関わりから身に付く言葉の力は一生の財産、人生の宝物になります。心を開いて声を掛け合い、言葉を交わし合いきましょう。

☆テスト前の学習

定期考査では、文章の読解、漢字の読み書き、語句・文法の知識、古典（古文と漢文）など、多分野にわたった問題が出題されます。授業時の復習はもとより、出題範囲（教科書やプリント、ワークシート）の文章の読み込みを深め、感想や解釈、意見などが適切に記述できるようにしておきましょう。また、授業時に朗読・暗唱した作品は覚え直すこと。用語やキーワードを説明する力も求められます。計画的に学習に取り組み、長期休業中の補充教室、学習相談等も活用しましょう。

☆一年間の学習内容

分野	学習内容	分野	学習内容
文学的文章	<ul style="list-style-type: none"> ・詩「世界はうつくしいと」 「挨拶—原爆の写真に寄せて」 「初恋」 「私を束ねないで」 ・小説「握手」 「故郷」 ・随筆「温かいスープ」 ・俳句「俳句を味わう」 ・俳句解説「俳句の可能性」 	論理的文章	<ul style="list-style-type: none"> ・論説「作られた『物語』を超えて」 「人工知能との未来」 「人間と人工知能と創造性」 「誰かの代わりに」 ・情報『想いのリレー』に加わろう
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を選んで書こう ・論理の展開を整える ・多角的に分析して書こう ・情報を読み取って文章を書こう ・俳句 	古典	<ul style="list-style-type: none"> ・古文「古今和歌集 仮名序」 「君待つと一万葉・古今・新古今」 ・古文「『おくのほそ道』から」 ・漢文「学びて時に之を習ふ—論語から」 ・古文解説「和歌の世界」
話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・評価しながら聞く ・説得力のある構成を考えよう ・聞き上手になろう ・合意形成に向けて話し合おう 	読書	<ul style="list-style-type: none"> ・私の一冊をさがしにいこう ・本は世界の扉
通 年			
<ul style="list-style-type: none"> 【漢字と語句】 【書写】 【文法】 			

☆評価について

知識及び技能	思考力・判断力・表現力			主体的に学習に取り組む態度
言葉の特徴や使い方 情報の扱い方 我が国の言語文化	話すこと 聞くこと	書くこと	読む力	
評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法	評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・小テスト（漢字の読み書き、語句、文法など） ・課題（暗唱など） ・提出物 ・書写作品 ・音読 ・創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・小テスト（聞き取り学習など） ・スピーチ、討論、話し合い活動など 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文（意見文、感想文など） ・創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・定期テスト ・作文（意見文、感想文など） ・音読、朗読 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ワークシート ・ノート ・作文 ・提出物 ・作品 ・発表 ＊上記の取り組みや振り返りの記述等から総合的に判断する。

社会科の学習を進めるにあたって(3年生)

◇3年の課題は 課題は

- ①重要事項を理解することが大切です。そのためには日ごろの授業に集中することです。また資料から読み取り、自分の意見にまとめることにやや課題を感じます。
- ②社会的事象を論理的に考えることがやや苦手な生徒がいます。

それを克服するために

- ①自分から率先して積極的に発表する、前向きな意識を持つようにしましょう。
- ②授業中に行っている授業の振り返りのメモを取り、授業内容を明確にしましょう。

発展的な学習のために

- ①記述を中心とした振り返りのまとめをおこない、論理的に考える習慣を身に付けさせる。
- ②様々な資料を読ませ、社会的事象に対する論理的な思考力を養う。

◇授業の進め方

- ①プリント資料を配布する時があります。授業後必ずノートに貼ってください。
- ②学習内容を資料集などを使って確認していきます。
- ③問題シートを使って学習の確認を行います。
- ④1・2年生の復習を行い、基礎的・基本的な事項を確認します。

◇学習する上で注意してほしいこと

- ①授業で使うものを忘れないようにしましょう。普段使うものは、次の通りです。
地理の持ち物〔教科書・資料集・ノート・地図帳〕
歴史の持ち物〔教科書・資料集・ノート・〕
公民の持ち物〔教科書・資料集・ノート〕
- ②授業の前は、ノートを開いて前の授業で何をやったか確認をしておきましょう。
- ③毎時間テーマに基づいて工夫してノートを完成させましょう。
- ④先生や友だちの話を良く聞きましょう。
- ⑤よく考えて、授業に参加しましょう。
- ⑥自分の考えを発表できるようにしましょう。

◇家庭学習の進め方

- ①授業中終わらなかったプリントの作業やまとめをしましょう。
- ②授業があった日の授業内容を、ノートを使って復習しましょう。
- ③基礎的・基本的な事項の確認をしましょう
- ④ニュース番組や新聞を通して、世界的視野の中で日本で起こっている出来事を捉え、社会情勢を正しく見極める力を養いましょう。

◇テスト前の学習

〈歴史的分野〉

- ①ノート・教科書で復習し、家庭学習用ノートをつくり再度まとめてみるのもいいと思います。
- ②年表を使い、できごと整理(どこで・だれが・何をした?・その結果?)をしましょう。
- ③できごとを丸暗記するのではなく、原因や影響など関連づけて大きな流れをつかみましょう
- ④テーマ(タイトル)ごとにノートを見直し、テーマを深めるための書き込みをしましょう。

〈公民的分野〉

- ①「点数をとる」ための勉強だけではなく、「日本の社会の一員となる」「世の中を知る」勉強をしましょう。
- ②日本の「しくみ」や「きまり」を丸暗記するのではなく、自分に必要なこととして理解しましょう。
- ③学校の授業の復習をしましょう。
- ⑤テーマ(タイトル)ごとにノートを見直し、テーマを深めるための書き込みをしましょう。

◇1年間の学習内容

月	前 期	月	後 期
4	〈歴史的分野〉 第5章 開国と近代日本の歩み 3 近代産業、近代の文化 第6章 二度の世界大戦と日本	10	第2章 民主政治 民主政治と私たち 国の政治のしくみ 地方自治とわたしたち
5	1 第一次世界大戦と日本 2 大正デモクラシーの時代 3 世界恐慌と日本の中国侵略 4 第二次世界大戦と日本	11	第3部 経済 第1章 市場経済 私たちの生活と経済 消費者と経済 企業と経済 これからの日本経済 第2章 財政
6	第7章 現代の日本と私たち 1 戦後日本の出発 2 冷戦と日本の発展 3 新たな時代の日本と世界	12	
7	〈公民的分野〉 第1部 現代社会 第1章 現代社会と文化 第2章 現代社会をとらえる枠組み 第2部 政治	1	
9	第1章 日本国憲法 民主政治と日本国憲法 基本的人権の尊重 法の支配を支えるしくみ 第2章 民主政治 民主政治と私たち 国の政治のしくみ 地方自治と私たち	2	第4部 国際 第1章 国際社会 紛争のない世界へ 貧困解消と環境保全 第2章 課題の研究
		3	

◇評価

1、知識・技能

*評価方法：定期考査、小テスト、ノート、プリント

- ・社会的事項について知識を身につけ、理解しているか
- ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだすことができているか

2、思考・判断・表現

*評価方法：定期考査、小テスト、ノート、プリント

- ・さまざまな資料から、地理的特色や歴史的特色を導きだし、わかりやすく表現することができているか

3、主体的に学習に取り組む態度

*授業時の取り組み、レポートを含む提出物、ノート、小テスト

- ・課題レポート、ノート等の記述
- ・授業に取り組む姿勢や発言

数学の学習を進めるにあたって 第3学年

☆ 3年数学の課題は

課題は：

- ① 数の平方根を含む四則演算の基礎の定着。
- ② 多項式を含む四則計算の基礎の定着。
- ③ 事象を数学的に一般化して考えること。
- ④ 自分の考えを数学的な表現を用いてまとめて言語化（文章化）すること。

それを克服させるために：

- ① 中学生としての良き学習習慣を身につける。
- ② 単元ごとにテストを実施し、達成度と課題を把握して解決していく。
- ③ タブレットを活用し、基礎の繰り返し練習を行う。
- ④ 多様な考え方を生徒相互で共有する機会を増やす。

発展的な学習のために：

- ① 学んだことをもとにして、身近な問題や数学的な問題の解決方法について考える。
- ② 多様な考え方を追求することにより、数学に対する見方や考え方を深める。
- ③ 身の回りのことを数学的に見て、考えることができる。

☆ 授業の進め方

- ① 授業の課題を把握し、見通しをたてる。
- ② 自分の考えをもち、問題を解決する。
- ③ 友達の考えを知って共通点や違いを発見したり、話し合ったりする。
- ④ 授業を振り返って、分かったことや疑問に思ったことをまとめ、自己評価をする。
- ⑤ 新たな課題を見つけ、さらに考えを深める。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。
- ⑦ 単元テストや小テストで自分の達成度と課題を把握し、学習への取り組み方を見直ししながら、分からない部分を復習する。

☆ 学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な持ち物（教科書・ノート・問題集・筆記用具）を忘れないよう、毎回必ず準備する。学習内容によって、三角定規・コンパスが必要な場合もあるので、予め用意しておく。
- ② 授業中は先生からの指示をよく聞き、「話を聞く時間」、「自分で考える時間」、「友達と考えを共有する時間」の区別をしっかりとつけ、メリハリのある授業にする。
- ③ 黒板やモニターの内容は、色分けなどをしてノートやプリントに書く。気が付いたことや大切だと思ったこと、疑問に思ったことなどを書き込み、自分なりに工夫してまとめるとよい。
- ④ 課題に対して積極的に考え、見通しをたてて自分の考えをもつ。友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。さらに、新たな課題について考察する姿勢をもつ
- ⑤ 疑問に思ったことや分からないことは、そのままにせず質問する。
- ⑥ 宿題や提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆ 家庭学習の進め方

- ① 学習した内容は、教科書やノートを使って、その日のうちに復習をする。
- ② 問題集などを利用して問題演習をする。
- ③ 問題を解いたら必ず答え合わせを行い、わからなかったことや、間違えたところを確認し、自分の課題を確認する。

☆ テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、ノートや教科書をよく見直す。
- ② 章末問題に取り組む。
- ③ 問題集の問題を解く。すべて解き終えたら、一度間違えた問題や分からなかった問題などを何度も解き直し、理解できるまで行うこと。
- ④ ノートや問題集のまとめをして提出の準備をする。

☆ 1年間の学習内容

前 期	後 期
第1章 多項式 1. 多項式の計算 2. 因数分解 3. 式の計算の利用 第2章 平方根 1. 平方根 2. 混合をふくむ式の計算 3. 平方根の利用 第3章 2次方程式 1. 2次方程式とその解き方 2. 2次方程式の利用 第4章 関数 $y=ax^2$ 1. 関数 $y=ax^2$ 2. 関数 $y=ax^2$ の性質と調べ方 3. いろいろな関数の利用	第5章 相似な図形 1. 相似な図形 2. 平行線と比 3. 相似な図形の面積と体積 第6章 円 1. 円周角の定理 2. 円周角の定理の利用 第7章 三平方の定理 1. 三平方の定理 2. 三平方の定理の利用 第8章 標本調査 1. 標本調査 ○3年間のまとめ 問題演習

☆ 評価について

1 知識及び技能

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、ノート、プリント、問題集

- ・基礎的な概念や原理・法則を理解している。
- ・学んだことからについて正しい知識を身につけている。
- ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したりしている。
- ・数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期考査、単元テスト、小テスト、ノート、プリント、話し合い活動、課題、発表

- ・数学を活用して事象を論理的に考察することができる。
- ・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察することができる。
- ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。
- ・数学的な知識を活用して、さらに探究した内容が表現されている。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業や課題への取り組み、ノート、プリント、話し合い活動、学びの足跡、発表

- ・授業に取り組む姿勢や積極的・意欲的な発言をしている。
- ・ノートやプリント、課題において、さらに知り合いことなどの意欲的な記述をしている。

以上を総合的にまとめ評価する。

理科の学習を進めるにあたって 第3学年

☆3年理科の課題は

課題は：

- ① 興味関心は全体的によく、学習に関しても前向きである。発言も多く、お互いに声を掛け合って学習することも積極的に行う。しかし、学習内容が時間とともに忘れてしまう生徒が多い。
- ② 自分の考えをまとめて言語化（文章化）することが苦手な面がある。

それを克服するために：

- ① 単元ごとの小テストの実施
- ② 授業で勉強したことの振り返りを友達同士で話し合う（言語化する）ことにより学習の効果が上がる。その時メモを取り、内容を明確にすることが大切である。

☆授業の進め方

- ① その時間の目標や課題を理解する。
- ② 課題に対して予想を立て、観察、実験を行う。
- ③ 結果から見出したことを整理し、発表する力をつける。
- ④ 自然科学の考え方を身につける。
- ⑤ 教科書やプリント等を使って重要な用語や考え方を確認し、学習内容をより深く定着させる。
- ⑥ ワークシートや問題集に取り組み、基礎・基本を確認する。

☆学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要な物は忘れない。
- ② 授業中、先生の説明や友達の発言をしっかりと聞く。友達の発言の中にも考え方のヒントが示されているので、自分の考え方の参考にする。
- ③ ノートやワークシートをきちんととる。板書事項はもちろんのこと、自分なりに工夫する。プリントはノートに貼るかファイルにまとめておく。
- ④ わからないときはそのままにせず、必ず質問する。疑問をもつとよい。
- ⑤ 実験、観察は積極的に行う。自分でやってみて自分の目で確かめ記憶にとどめることが必要。他の班員に任せるだけにはしない。
- ⑥ 宿題、提出物は誠実に取り組み、期限を守って提出する。未提出ということがないようにする。

☆家庭学習の進め方

- ① その日の授業内容はその日に復習する。予習より復習が大切。
教科書・ノート（プリント類）を見直す。
- ② 単元ごとに小テストを行います。

☆テスト前の学習

- ① 教科書、ノート、ワークシートをよく見直す。
- ② 問題集の問題を解く。わからないところはそのままにせず、解説を読んだり、質問したりする。
- ③ 観察、実験のまとめを見直す。結果だけでなく、観察、実験の注意なども確認をすること。

☆1年間の学習内容

	物理化学分野	生物地学分野
4月	<物理分野> 電気の世界	<生物分野> 生命の連続性
5月	3 電流と磁界 運動とエネルギー	1 生物の成長と生殖
6月	1 物体の運動	2 遺伝の規則性と遺伝子
7月	2 力のはたらき方 3 エネルギーと仕事	3 生物の多様性と進化
9月	<化学分野> 化学変化とイオン	<地学分野> 地球と宇宙
10月	1 水溶液とイオン	1 地球の運動と天体の動き
11月	2 酸、アルカリとイオン	2 月と金星の見え方
12月	3 化学変化と電池	3 宇宙の広がり
1月	<終章>地球と私たちの未来のために	
2月	1 自然のなかの生物	
3月	2 自然環境の調査と保全	
	3 科学技術と人間	
	4 持続可能な社会をつくるために	

☆評価

1 知識及び技能

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント

- 基本的な概念、法則を理解している
- 学んだことがらについて正しい知識を身につけている。
- 実験、観察の様々なデータと、理解した法則と内容が一致することができる。
- 観察、実験で使う器具の基本操作が身につけている。
- 観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- 実験、観察のデータを論理的に考えることができる。

2 思考力・判断力・表現力

☆評価方法：定期テスト、小テスト、プリント、レポート、話し合い活動

- 観察、実験のデータを分析し、傾向や法則を見つけることができる。
- 観察、実験の考察を言語化できる。
- 観察、実験のデータを適切な方法でまとめることができる。

以上のことがらは個人の内面での理解はもとより、論述や発表、話し合いで意見を共有できるものとする。

- 観察、実験を安全かつ正しい方法を身につけ、かつ実践することができる。

3 主体的に学習に取り組む態度

☆評価方法：授業への取り組み、個人内評価 等

- 授業態度や発言や記録
- 自己評価

以上を総合的にまとめ評価する。

英語の学習を進めるにあたって 第3学年

第3学年学習到達目標

1. はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点をとらえることができる。
2. 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の要点をとらえることができる。
3. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。
4. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。
5. 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができる。

☆授業の進め方

- ① 帯活動（英語の歌、チャット等の言語活動、速読、語彙、文法など）
- ② 前時の復習
- ③ 新言語材料の導入及び音読、もしくは発表活動
- ④ まとめ・課題の指示

☆学習する上で注意してほしいこと

英語は「実技教科」です。定期考査や入試で問題を解く力も大切ですが、実際に英語で聞いたり読んだりして理解する力や、話したり書いたりして表現できる力をつけることが大切です。3年生では今まで積み上げてきたものにさらに磨きをかけ、実際のコミュニケーションで活用できる英語力を目指します。積極的に聞き、話し、読み、書き、コミュニケーションを楽しみながら、共に学習していきましょう。

☆家庭学習の進め方

教科書本文の学習

- (1)教科書本文を5回以上音読する。
(途中で目を離しても言えるぐらい。デジタル教科書で音声を聞いてから音読するとさらに効果的。)
- (2)教科書を見て、本文を授業ノートに書く。(1回目)
- (3)教科書の新しい単語を授業ノートにまとめる。
- (4)1文ずつ音読した後、本文をライティングノートに書く(2回目。1文ずつ覚え、見ないで書く)
- (5)教科書を見て(4)の答え合わせをし、間違いを赤ペンで直す。(間違えたものは書けるまで練習)

その他の家庭学習

- ・授業中の課題（音読、スキット、リテリングなど）の練習。
 - ・「ワーク」の習ったページを解き、答え合わせまでする。音読もする。
 - ・「ユメタン」「高校入試問題集」に取り組む。
- ※授業内容が定着できたか、家庭学習できているかをチェックします。(教科書の音読、ライティングなど)

☆テスト前の学習

- ① 教科書の本文を改めて音読できるか、日本語に直せるか、書けるかチェックし、できないものはライティングノートに覚えるまで書いて練習する。
- ② 新英語のワーク、問題集をもう一度解く（解説などを活用）。間違えたところは正解するまで解く。
- ③ 自分で解決できないところは、そのままにせず、質問したり調べたりして分かるまで学習する。

☆1年間の学習内容

月		月	
4	Unit 0 Unit 1	6	Learning SCIENCE in English Let's Listen 2
5	Let's Write 1 Let's Listen 1 Unit 2 Let's Talk 1 Grammar for Communication 1	7	Unit 3 Let's Write 2 Grammar for Communication 2 Stage Activity 1 Let's Read 1
月		月	

8		1 1	Stage Activity 2
9	Let's Listen 3		Let's Listen 5
	Unit 4		Unit 6
	Let's Talk 2		Let's Talk 3
	Learning CIVICS in English		Grammar for communication 4
	Let's Listen 4		Let's Listen 6
1 0	Unit 5	1 2	Stage Activity 3
	Let's Write 3	1	Let's Read 2
	Grammar for Communication 3	2	Let's read 3
			Speech

☆評価について

1 知識及び技能

評価方法：定期テスト、パフォーマンステスト、章末テスト、ユメタンテスト

「知識」評価規準：英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。

「技能」評価規準：実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、

- ・はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている。
- ・書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技術を身に付けている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合う技能を身に付けている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話す技能を身に付けている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。

2 思考力・判断力・表現力

評価方法：定期テスト、パフォーマンステスト、小テスト

評価規準：コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、

- ・はっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。
- ・書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。

3 主体的に学習に取り組む態度

評価方法：授業や課題の取り組み状況、自己の学習状況を把握し、粘り強く改善しようとする姿勢、ノートやワークブックの記入状況、パフォーマンステスト

評価規準：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、

- ・話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されていることを聞こうとしている。
- ・書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれていることを読もうとしている。
- ・聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
- ・聞き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
- ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

以上を総合的にまとめ評価する。

定期テスト、章末テスト、ユメタンテスト、小テスト（ライティングなど）：全体の50%程度

パフォーマンステスト（プレゼンテーション、インタビュー、スピーチ、音読、スキットなど）：全体の30%程度

ノート、ワーク：全体の20%程度

音楽の学習を進めるにあたって 第3学年

☆課題

興味・関心をもち様々な活動に積極的に取り組む姿勢が多く見られます。一方で、自分の声を人に聞かれることに遠慮があり表現力が乏しくなることや、音楽を聴き感受したことを言葉で表現することに課題があります。

☆課題を克服するために

- ① ピアノやパート CD の周りなどで歌唱練習を行い、歌唱表現のアドバイスをします。
- ② 鑑賞時にグループで感受したことを互いに発表しあう時間をとり、多角的な視点や言葉の表現を知る機会を設けます。

☆発展的な学習のために

- ・歌詞の内容や作曲者の意図をくみ取り、自分たちならどのように表現するのか考え、豊かな表現活動につなげられるようにします。
- ・演奏を録音し、客観的に聴く時間を設けます。聴くことにより、課題に気付く力や鑑賞能力の向上につなげます。

☆授業の進め方

- ① 持ち物は教科書・合唱曲集・ファイル・筆記用具・(タブレット) です。
- ② 歌唱では、発声練習・パート練習・合唱練習を状況に応じて行います。
- ③ 鑑賞では、プリントを使用し、作曲者・楽器・音楽構成などについて学習をします。
- ④ その他、授業時数に応じて創作、楽器実技などを学習します。
- ⑤ 単元ごとに実技テストを行います。課題は授業内で練習します。

☆学習する上で注意してほしいこと

どの題材も一生懸命に取り組み、授業を作っているひとりとしての意識を強く持ちましょう。

- ① 「話を聞く時間」と「自分を表現する時間」の区別をつけましょう。
- ② 実技では、どの形態の練習も積極的に取り組みましょう。
- ③ プリントの内容は、工夫して丁寧に完成させましょう。

☆家庭学習の進め方

家庭では、様々なジャンルの音楽にふれ、音に対する感性を磨いてください。

☆テスト前の学習

- ① 授業で行ったことを振り返り、教科書やプリントをよく見直しましょう。
- ② 実技テストは、題材によって一人で行ったり、複数で行ったりします。授業での練習＝実技テストという心構えで臨んでください。

☆ 1年間の学習内容

月	単元	月	単元
4月	「三味線」	10月	合唱コンクールに向けて合唱練習
5月	「花の街」「早春賦」	11月	「能」 「社会を映し出す音楽」
6月	「ブルタバ」	12月	「旋律創作」
7月	合唱コンクール課題曲 「大地讃頌」	1月	「卒業式歌」
9月	合唱コンクール自由曲 合唱コンクールに向けて合唱練習 「ポピュラー音楽」	2月	
		3月	

- 実際には、歌唱・鑑賞・理論が重複して授業は進行します。
- 状況によって実施する順番が変更される可能性があります。

☆評価について

①知識・技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わりや音楽の多様性を理解している。

創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ表現している。

- ・評価内容…歌唱時の正しい姿勢、発声、音程、器楽の正しい奏法、音楽記号の理解と表現する技能、作曲家、楽曲、演奏楽器、歴史、楽曲がもつ音楽性の理解
- ・評価方法…観察・実技テスト・定期考査・プリントの内容

②思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。どのように表現するかについて思いや意図をもち表現をしたり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

- ・評価内容…楽曲がもつ音楽性の理解、歌詞への理解、音楽記号の理解とそれに伴う表現力、どのように表現するか思いや意図を持っている
- ・評価方法…観察・実技テスト・定期考査・プリントの内容

③主体的に学習に取り組む態度

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

- ・評価内容…授業中の態度や活動の主体性
- ・評価方法…観察・提出物・プリントの内容

美術の学習を進めるにあたって（3年生）

◇ 授業の進め方

- ① 持ち物は、鉛筆、教科書、資料集、レタリング字典、絵の具セット（デザインセット）、ファイルです。必要に応じて小型の鉛筆削り、油性ペン、色鉛筆、タブレット等を使うこともあります。鉛筆、資料集、レタリング字典、絵の具セット、ファイルは教材費で購入いたします。
- ② 作品制作では、関連作品を鑑賞するなど、これから作るものについて学習し、制作の手順や方法について説明を聞いて作業を進めます。良いものを作ろうと意欲的に取り組む姿勢と、計画的に制作を進め、期限内に完成させることを大切にしています。
- ③ 鑑賞ではワークシートを使い、有名な作品や作者、技法や美術のジャンルなどについて学習します。単元の中で、他の人が作った作品を鑑賞することもあります。また、そこから感じ取ったことを文章等で表現をしたり、話し合い活動によって考えを深めていきます。

◇ 学習する上で注意して欲しいこと

- ① 忘れ物に気を付けてください。
- ② 期限内に満足のいく形で作品を完成させられるように、集中して制作活動に取り組みましょう。
- ③ 提出の期限は守ってください。提出物には記名を忘れないようにしましょう。
- ④ 美術室の備品は全校生徒が使うものです。大切に扱い、次の人が気持ちよく使えるように、片付けまでしっかりと行いましょう。
- ⑤ 1時間1時間の授業を大切にするために、チャイムと同時に始められるようにしましょう。
- ⑥ 課題内容によって衣服に汚れが付く恐れがあります。ジャージ等を上に着て作業を行いましょう。

◇ 家庭学習の進め方

- ① 授業内で完成できなかった場合など、一部の課題を宿題とすることや、放課後に制作をしてもらうことがあります。計画的に制作を進め、提出期限を守りましょう。
- ② 課題（テーマ）が発表されたら、身近にある雑誌やカタログ、写真や実物などを意識して見ておくと、作業をスムーズに進めることができます。
- ③ 好きなもの、変わったもの、個性的なもの、綺麗なものなど、普段から色々なものに興味を持ち、そこから様々なことを感じ取れるようにしておくといいでしょう。
- ④ 美術作品は本物に触れることで良い影響を受けることができます。機会があれば展覧会などへ、行ってみるのも良いと思います。

◇ テスト前の学習

- ① テストは、教科書や資料集、プリントや授業で行った内容等を中心に問題が出題されます。プリントや教科書、資料集等に目を通し、授業の内容をよく思い出しておきましょう。
- ② 配布されたプリント類は全て、ファイリングしておきましょう。

◇ 1年間の学習内容（3年生）

前 期		後 期	
月		月	
4月	・仏像について学ぶ ・日本の美術を学ぶ	10月	彫刻のモチーフを考える
～	・京都・奈良をテーマにお盆制作 ・デザインを考えて描く	～	木彫りまたはゴム材で彫刻をする
7月		3月	
9月	・着物の文様について学ぶ ・着物の文様を考えハンコ作り		

◇ 評価

①「知識・技能」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

対象や事象を捉える造形的な視点について理解をしているか、表現方法を創意工夫し、創造的にあらわしているかを評価します。美術的知識に基づいた言葉を覚えるだけでなく、表現や鑑賞において造形的な視点に基づく判断がなされているかや、創造的な技能が身に付いているかも見ます。

②「思考・判断・表現」（評価資料：作品等提出物・定期考査 等）

造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方が深められているかを評価します。最終的なアイデアのみでなく、それを生み出すまでの過程や、鑑賞活動においてどのような見方、感じ方をしたかも見ます。

③「主体的に学習に取り組む態度」（評価資料：授業に取り組む姿勢・作品等提出物・定期考査 等）

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしているかを評価します。学習過程で習得する「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を、自らの課題に結びつけ、主体的に学習や制作活動の中で発展させていこうとする意欲を見ます。

【保健体育科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【評価の観点】

〔体育分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解するとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。

〔保健分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。

【各学年の目標】

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

〔体育分野 第3学年〕

(1)	(2)	(3)
運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

〔保健分野 全学年〕

(1)	(2)	(3)
個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

技術分野の学習を進めるにあたって 第3学年

☆3年 技術分野の課題は

課題は：

- ①コンピュータの基本的な構成と機能、情報モラルについて学習する。
- ②情報社会における著作権について学習する。

それを克服するために：

- ①情報通信ネットワークと情報モラルを学習する。
- ②身近なところで著作権の実例を学習する。

発展的な学習のために：

- ①コンピュータの機能や発信した情報に対する責任を知ると共に、情報モラルについて考える。
- ②日常生活で著作権について考える。

☆授業の進め方

技術の学習内容は「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」の4分野になっています。

第3学年では、コンピュータの基本的な構成と機能、情報モラルを学習します。また、情報社会における著作権についても学習します。

後期においては、主に3年間の総合復習として、改めて情報モラルなどについて学習していきます。

☆学習する上で注意してほしいこと

【技術室を使用するときには】

- ①大変危険な機械がたくさんあります。絶対に勝手に機械に触れないでください。特に技術室木材加工部屋の後部にある、丸鋸盤や自動かな盤は大変危険なので、鉄柵の後ろには入らないでください。
- ②工具を安全に取り扱ってください。のこぎりやキリで人を傷つけることがないように、細心の注意をはらってください。
- ③整理・整頓を心掛けてください。釘が1本落ちているだけでも危険です。

※ 絶対に技術室から物を持ち出さないでください。のこぎりやその他工具だけでなく、紙ヤスリや釘なども持ち出すことは厳禁です。

☆家庭学習の進め方

技術分野では、家庭学習は特に必要ありません。そのかわりに、その日に学習した授業内容をよく復習してください。

☆ 1年間の学習内容

前期		後期	
月	D. 情報に関する技術 ・ 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組み ・ プログラムと計測制御	月	・ 著作権や発信した情報に対する責任と、情報モラル 3年間の総合復習として、改めて情報モラルなどについて学習
6		11	
7		12	
8		1	
9		2	
10		3	

※ 状況によって変更が生じることがある。

☆ 評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活で利用されている、生活に関する技術について関心をもち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のための知識・技能を身に着けている。	生活に関する技術を学ぶ中から、問題を見いだして課題を設定し、その課題を解決できるような力を身に着けている。	生活に関する技術を学ぶ中から、自分の生活に関わる技術の課題を解決するために、主体的に取り組み、改善、実践しようとしている。
方法	ノート、作業	ノート、作業	ノート、作業

技術分野の学習の評価は、上記3観点から行います。

教科としての評価は、技術分野（50%）＋家庭分野（50%）＝「技術・家庭」（100%）として成績を出します。もし、技術分野か家庭分野のどちらかが得意でよく頑張ったとしても、もう一方で手を抜いてしまえば良い成績はつきませんので注意して下さい。

家庭科分野の学習を進めるにあたって 第3学年

○授業の進め方

「家族・家庭生活」を中心に学習をします。

【教室での授業】

☆教科書、プリント、ワークにそって進めます。

☆1時間の授業には、「先生の説明を聞く時間」「自分の考えをまとめ書く時間」「班やクラスで意見交換をする時間」があります。

【被服室・調理室を使う授業】

☆道具の使い方・基礎技法を確認します。実技テストを行う予定です。

☆班員と協力して実習します。

☆全員が少しずつ分担して片付けます。

☆振り返りシートにその日の実習についてまとめます。

○学習するうえで注意してほしいこと

【1】持ち物

☆教室……①教科書、②ワーク（クラス・番号・名前を明記）、③プリント、④筆記用具（色ペン2色あるいは色鉛筆2色を含む）

☆調理室……①エプロン、②三角巾、③ミニタオル1枚（あるいはハンカチ2枚）、④髪を束ねるもの（あるいは朝から束ねてくる）、⑤体調が万全であること、⑥その他指示したもの

☆被服室……①ノート、②筆記用具、③名前ペン、④小学校で使っていた裁縫セット、⑤その他指示したもの

※材料は被服室に置いておきます。

【2】実習は、慎重かつ真剣に取り組みましょう。

【3】実習中は、自分や友人を傷つけないように安全に留意しましょう。

【4】プリント、ワークは**予告なく回収**しても自信を持って提出できるようにまとめましょう。

【5】実習中は、班で協力し友達の良いところを学びましょう。

【6】想像力をはたらかせて、授業の内容と生活を関連付けましょう。

【7】立ち歩きは禁止です。用があるときは手をあげましょう。

【8】黒板の内容と、先生の話の中で大切と思ったことは書き留めましょう。

（ヒント：何度も説明したこと・大きな声で説明したこと・色チョークを使ったときなど）

【9】提出〆切を守るように最大の努力をしましょう。

【10】何らかの事情で授業に出席できなかった場合、**次の授業開始までに**提出物や持ち物を**自分で**確認しましょう。

○家庭学習の進め方

☆学習内容に合わせて家庭学習を指示します。また、20分でもよいので、その日のうちに復習をしましょう。（勉強の目安時間はテスト前を除く。）

○テスト前の学習

☆教科書、ワーク、そしてプリントを見直す。

☆実習したことや授業で先生が話したことを思い出す。

※テストは年間3回です。毎回50点満点です。

○1年間の学習内容 ※状況により変更する場合があります。

前期		後期	
月	A家族・家庭生活	月	A家族・家庭生活
4	家庭分野のガイダンス 1 自分の成長と家族・家庭生活	10	3 幼児とのかかわり お世話になった人への作品（手芸）製作
5	2 幼児の生活と家族 幼児のころと今の自分	11	幼児とのかかわり方を考えよう お世話になった人への作品（手芸）製作
6	幼児の体の発達について考えよう 幼児の心の発達について考えよう	12	幼児のおやつについて
7	幼児の生活習慣の習得について考えよう	1	4 家庭生活と地域とのかかわり
8		2	5 持続可能な家庭生活 調理実習（幼児のおやつ）
9	幼児の生活と遊びを知ろう お世話になった人へ作品（手芸）製作	3	学習のまとめ

○評価 家庭分野では下記の3観点から総合的に判断します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族・家庭・衣食住・消費・環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決方法を考え、実践・評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身につけている。	家族の一員として、生活をより良くしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。
方法	☆定期考査 ☆実技テスト ☆ワーク、プリントなど ☆振り返りシート	☆定期考査 ☆作品 ☆ワーク、プリントなど ☆振り返りシート	☆作品 ☆ワーク、プリントなど ☆授業の取り組み ☆振り返りシート ☆定期考査

なお、技術分野と合わせて最終評価としますが、その割合は5:5です。